

(PATENT)

Docket No.: LA-7557-101US

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:
In-Makoto Morita

Application No.: Not yet assigned

Confirmation No.:

Filed: March 30, 2004

Art Unit: N/A

For: CASE FOR A PRESS-THROUGH PACKAGE

Examiner: Not Yet Assigned

CLAIM FOR PRIORITY AND SUBMISSION OF DOCUMENTS

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Dear Sir:

Applicant hereby claims priority under 35 U.S.C. 119 based on the following prior foreign application filed in the following foreign country on the date indicated:


<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Date</u>
Japan	2003-094034	March 31, 2003

In support of this claim, a certified copy of the said original foreign application is filed herewith.

Applicant believes no fee is due with this response. However, if a fee is due, please charge our Deposit Account No. 50-0337, under Order No. LA-7557-101US from which the undersigned is authorized to draw.

Dated: March 30, 2004

Respectfully submitted,

By 
M. John Carson
Registration No.: 25,090
FULBRIGHT & JAWORSKI L.L.P.
865 South Figueroa
Twenty-Ninth Floor
Los Angeles, California 90017-2571
(213) 892-9200
(213) 680-4518 (Fax)
Attorney for Applicant



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 3 月 3 1 日
Date of Application:

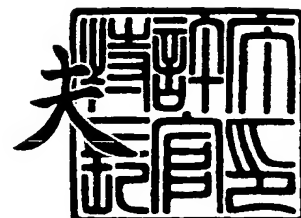
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 0 9 4 0 3 4
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 3 - 0 9 4 0 3 4]

出 願 人 朝日印刷株式会社
Applicant(s): 株式会社カナエ

2 0 0 4 年 3 月 1 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 4 - 3 0 1 8 8 1 4



【書類名】 特許願

【整理番号】 030331P465

【提出日】 平成15年 3月31日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61J 7/00
B65D 83/04

【発明者】

 【住所又は居所】 富山県富山市大手町 3 番 9 号 朝日印刷株式会社内

 【氏名】 森田 誠

【発明者】

 【住所又は居所】 富山県富山市大手町 3 番 9 号 朝日印刷株式会社内

 【氏名】 渡辺 信介

【発明者】

 【住所又は居所】 富山県富山市大手町 3 番 9 号 朝日印刷株式会社内

 【氏名】 老田 哲夫

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府大阪市旭区高殿 4 丁目 1 6 番 1 1 号 株式会社カ
ナエ内

 【氏名】 田中 勝人

【発明者】

 【住所又は居所】 大阪府大阪市旭区高殿 4 丁目 1 6 番 1 1 号 株式会社カ
ナエ内

 【氏名】 秋村 泰憲

【特許出願人】

 【識別番号】 391019500

 【氏名又は名称】 朝日印刷株式会社

【特許出願人】

 【識別番号】 000129057

 【氏名又は名称】 株式会社カナエ

【代理人】

【識別番号】 100074332

【弁理士】

【氏名又は名称】 藤本 昇

【選任した代理人】

【識別番号】 100109427

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 活人

【選任した代理人】

【識別番号】 100114421

【弁理士】

【氏名又は名称】 葉丸 誠一

【選任した代理人】

【識別番号】 100114432

【弁理士】

【氏名又は名称】 中谷 寛昭

【選任した代理人】

【識別番号】 100114410

【弁理士】

【氏名又は名称】 大中 実

【選任した代理人】

【識別番号】 100117204

【弁理士】

【氏名又は名称】 岩田 徳哉

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 022622

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 PTPシート用包装体

【特許請求の範囲】

【請求項1】 二片間にPTPシートを収納すべく一片にPTPシートの薬剤が収容される収容孔が設けられると共に、該収容孔に対向させて他片に前記薬剤を取り出すための取り出し孔が設けられるPTPシート用包装体であって、該取り出し孔を開閉させるべく規制片が前記PTPシートと他片間にスライド可能に介装され、且つ前記一片及び他片には規制片が表出する長孔が対向して設けられてなることを特徴とするPTPシート用包装体。

【請求項2】 前記一片の一端部と収容孔間及び他片の一端部と取り出し孔間が幅広に形成され、且つ一片の長孔が前記一端部よりも収容孔側に設けられると共に、他片の長孔が前記一端部よりも取り出し孔側に設けられてなる請求項1記載のPTPシート用包装体。

【請求項3】 前記一片又は他片の少なくとも何れか一方の長孔に取り外し可能な蓋が設けられてなる請求項1又は2記載のPTPシート用包装体。

【請求項4】 前記取り出し孔の開放時に規制片をスライドさせて取り出し孔を閉鎖させるべく規制片の端部が表出する切欠が一片又は他片の少なくとも何れか一方の端部に形成されてなる請求項1乃至3の何れかに記載のPTPシート用包装体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、医薬品包装の分野に於いて、固形剤包装用として一般に使用されているPTP (Press Through Package) シートを包装するための包装体に関する。

【0002】

【従来技術】

従来、この種の包装体としては、例えば特許文献1所載の発明が存在する。

【0003】

即ち、この従来の包装体は図4に示すように、相互に重合される二片1a, 9a間にPTPシート2aを挟持固定して収納するものであり、その一片1aにはPTPシート2aの薬剤3aを収容可能な収容孔4aが形成されると共に、収容された薬剤3aに対向して他片9aには薬剤3aを取り出すための取り出し孔11aが開口されている。また、各片1a, 9aには使用上の注意や服薬履歴等の留意事項が記載されて、各種情報を使用者、医師、薬剤師等に確実に伝達し得るように配慮がなされている。

【0004】

そして、実際に包装体から薬剤3aを取り出す場合は、包装体の一片1a側から薬剤3aを押圧することによりPTPシート2aの裏面側のアルミ箔を破って薬剤3aが取り出される。

【特許文献1】

特開平10-59415号公報

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、前記従来の包装体に於いては、薬剤3aを押圧するだけで容易にこれを取り出すことができるため、手が届くところに置いてあると子供等が薬剤3aを誤飲する危険性が高いという大なる問題点を有していたのである。

【0006】

また、他片9aには薬剤3aと対向して取り出し孔11aが設けられているので、その流通過程等に於いて薬剤3aが不用意に押圧力を受けて、外部へ離脱するという難点もあった。

【0007】

それ故に、本発明は上記従来の問題点を解決すべくなされたものであり、PTPシートの薬剤の取り出しを規制できるように包装することにより、子供等の薬剤の誤飲という事態を適切に回避し、安全且つ適正な薬剤の服用及び管理に寄与することを課題する。

【0008】

【課題を解決するための手段】

即ち、上記課題を解決するために本発明が採った手段は、二片間に P T P シートを収納すべく一片に P T P シートの薬剤が収容される収容孔が設けられると共に、該収容孔に対向させて他片に前記薬剤を取り出すための取り出し孔が設けられる P T P シート用包装体であって、該取り出し孔を開閉させるべく規制片が前記 P T P シートと他片間にスライド可能に介装され、且つ前記一片及び他片には規制片が表出する長孔を対向させて設けたことにある。

【0009】

また、請求項 2 に記載の発明のように、一片の一端部と収容孔間及び他片の一端部と取り出し孔間を幅広に形成し、且つ一片の長孔を前記一端部よりも収容孔側に設けると共に、他片の長孔を前記一端部よりも取り出し孔側に設けても構わない。

【0010】

更には、請求項 3 に記載の発明の如く、一片又は他片の少なくとも何れか一方の長孔に取り外し可能な蓋を設けたり、請求項 4 に記載の発明のように、取り出し孔の開放時に規制片をスライドさせて取り出し孔を閉鎖させるべく規制片の端部が表出する切欠を一片又は他片の少なくとも何れか一方の端部に形成してもよい。

【0011】

従って、上記発明特定事項からなる P T P シート用包装体に於いては、通常は規制片により他片の取り出し孔が閉鎖される状態にしておく。そして、薬剤を取り出す場合は、一片及び他片の長孔から表出する規制片の表裏両面を指で挟持しながらスライドさせて前記取り出し孔を開放した後、薬剤を一片側から押圧すれば取り出し孔から薬剤を取り出すことができる。更に、取り出し孔を閉鎖する場合は同様にして規制片を逆方向にスライドさせて元の位置に戻せばよい。

【0012】

また、請求項 4 に記載の発明に於いては、取り出し孔の開放時には切欠から規制片の端部が表出するので、この端部を内側に押圧すれば規制片が取り出し孔を閉鎖する元の位置に戻ることになる。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施形態について図面に従って説明する。

【0014】

図1乃至図3に於いて、1はPTPシート2の薬剤3が收容される複数の收容孔4を設けた一片で、收容孔4と一片1の一端部5間は幅広に形成している。6は一端部5よりも收容孔4側の位置に設けた長孔で、該長孔6は外周に切目7を有する蓋8により一部を除いて閉鎖されている。尚、本実施形態では長孔6の位置は一端部5から子供の手では操作しにくい約3cm程離して形成している。

【0015】

図3中、9は折り目10を介して前記一片1に連設した他片で、この折り目10で一片1を他片9側に折り込んだ時に、一片1の收容孔4と対向するようにPTPシート2の薬剤3を取り出すための取り出し孔11が設けられると共に、一片1の長孔6に対向する長孔12が設けられている。13、14は一片1及び他片9の端部に夫々形成した切欠を示す。15は一片1と接着すべく他片9の一端部側、他端部側及び下端部側に設けたシール部であり、16は他片9の他端部にヒンジ片17を介して連設した蓋片である。

【0016】

18は他片9とPTPシート2間に介装される規制片で、図3の如く他片9の一端部に折り目19及び連結片20を介して連設されてなり、規制片18と連結片20間には両者が離脱可能なように数箇所を除いて切目21が形成されている。22は切目21の側方に設けた凹凸部で、エンボス加工により幅方向に形成している。23は凹凸部22の側方に設けた複数の孔で、前記収納孔4及び取り出し孔11と略同形状に形成されており、規制片18を折り目19から他片9側に折り込んだ際には、孔23は収納孔4及び取り出し孔11とは一致しないように、即ち該取り出し孔11が閉鎖されるように設定してなり、且つ規制片18の一端部24及び下端部25の側方位置に他片9のシール部15が夫々配置されると共に、一片1及び他片9の切欠13、14から規制片18の上端部が表出しないように設定している。尚、他片9の上端部にはシール部15を設けていないため、図2の如く使用に際して規制片18を連結片20から離脱させた場合、該規制

片 18 は他片 9 と P T P シート 2 間を上下方向にスライドさせることができる。

【0017】

本実施形態は以上のような構成からなるが、取り出し孔 11 は規制片 18 により閉鎖され、且つ該規制片 18 は連結片 20 を介して他片 9 に固定されてスライドできない状態にあるため、流通過程等に於いて薬剤 3 が P T P シート 2 から不用意に離脱するようなことはない。

【0018】

次に、この包装体から薬剤 3 を取り出して服用する場合について説明する。先ず、図 2 のように蓋片 16 を開放した状態で一片 1 の切目 7 を破断して蓋 8 を離脱せしめて長孔 6 を開口する。そして、該長孔 6 及び他片 9 の長孔 12 から表出した規制片 18 の凹凸部 22 を表裏両側から指で挟持しながら矢印 A 方向に動かすと、規制片 18 が連結片 20 から離脱して該規制片 18 をスライドさせることが可能になり、前記凹凸部 22 の存在により規制片 18 のスライド操作がより容易に行える。

【0019】

また、長孔 6 を開口することにより初めて規制片 18 をスライドさせて薬剤 3 を取り出せるように構成してなるため、長孔 6 を予め蓋 8 により閉鎖しておくことで、薬剤 3 への不正な操作が規制され、改ざん防止が図れる等、薬剤 3 の管理の便に供し得るという利点がある。

【0020】

そして、規制片 18 の孔 23 が他片 9 の取り出し孔 11 と一致するまで規制片 18 をスライドさせると、規制片 18 の端部が一片 1 及び他片 9 の切欠 13, 14 から表出し、この状態で薬剤 3 を押圧すれば P T P シート 2 の裏面のアルミ箔が破断されて薬剤 3 を取り出すことができる。

【0021】

その後、薬剤 3 の取り出しを規制する場合は、先程とは逆に長孔 6, 12 から規制片 18 を挟持しつつ元の位置にまで該規制片 18 をスライドさせるか、或いは前記切欠 13, 14 に表出した規制片 18 の端部を内方に押圧して元の位置にまで規制片 18 をスライドさせれば、該規制片 18 により他片 9 の取り出し孔 1

1 が閉鎖されることになる。

【0022】

而して、この取り出し孔 11 の閉塞により薬剤 3 の取り出しが確実に規制させるため、子供等が不用意に薬剤 3 を取り出すことを阻止することができる。しかも、一片 1 及び他片 9 の長孔 6, 12 は各片 1, 9 の一端部から子供の手では操作しにくい約 3 cm 程離れた位置に形成しているため、子供の手で規制片 18 を挟持してこれをスライドさせることは非常に困難なものとなり、その結果、子供等による薬剤 3 の誤飲という事態を確実に防止でき、安全且つ適切に薬剤 6 を保護者等が管理し得ることになるのである。

【0023】

また、他片 9 に一片 1 及び規制片 18 を連設してなるため、これら各片 1, 18 を他片 9 側に折り返してやれば包装体を組立てられるため、その組立作業が非常に簡易且つ効率的に行えるという利点もある。

【0024】

尚、上記実施形態に於いては、規制片 18 を連結片 20 に破断可能に設け、且つ長孔 6, 12 から表出した規制片 18 を表裏両側から指で挟持しながら動かすことにより連結片 20 から離脱せしめて規制片 18 が初めてスライドし得るように構成すると共に、使用開始前は規制片 18 により他片 6 の取り出し孔 11 が閉鎖されるように設定したため、規制片 18 の不用意なスライドが確実に阻止されるという利点を得た。但し、規制片 18 は連結片 20 とは別体に構成してもよく、連結片 20 を省略することも可能である。この場合は一片 1 及び他片 9 の一端側にシール部を設ける等して、規制片 18 のスライド時のガイドして機能させる。同様に、他片 9 とは別体で一片 1 及び蓋片 16 を構成してもよい。

【0025】

また、一片 1 及び他片 9 に設けられる長孔 6, 12 の位置は、上記実施形態のように両片 1, 9 の一端部から離れて設けることが好ましいが、その具体的な位置は問わない。

【0026】

更に、上記実施形態では、一片 1 の長孔 6 に蓋 8 を設けたが、他片 9 の長孔 1

2 側にのみ蓋 8 を設けたり、長孔 6, 12 の双方に設けてもよい他、蓋 8 を設けずに各長孔 6, 12 を構成しても構わない。

【0027】

更に、切欠 13, 14 も上記実施形態の如く一片 1 及び他片 9 の双方に設ける必要はなく、何れか一方にのみ設けてもよい他、切欠 13, 14 を省略して両片 1, 9 を構成することも可能である。

【0028】

また、蓋片 16、規制片 18 の凹凸部 22 等も本発明の必須の発明特定事項ではない。

【0029】

その他、一片 1、他片 9、規制片 18 及びこれらの部材に夫々に設けられる収容孔 4、取り出し孔 11、孔 23 の形状や形成位置等も本発明の意図する範囲内に於いて任意に設計変更自在である。

【0030】

更に、本発明に係る包装体が適用可能な PTP シート 2 は上記実施形態のものに限らず、例えば薬剤を 1 個だけ収納した PTP シート等にも幅広く適用可能である。

【0031】

【発明の効果】

以上説明したように本発明に係る PTP シート用包装体は、他片の取り出し孔を開閉させるべく規制片が PTP シートと他片間にスライド可能に介装され、且つ一片及び他片には規制片が表出する長孔が対向させて設けられなるため、規制片により取り出し孔を閉鎖しておくことにより、不用意に薬剤が取り出されることはない。しかも、一片及び他片の長孔から表出する規制片の表裏両面を挟持しつつスライドさせて取り出し孔を開放するという取り出し孔の開放手段を採用したため、子供等にとっては規制片のスライド操作が困難なものになる結果、子供等による薬剤の誤飲という事態の発生を適切に回避でき、安全且つ適正な薬剤の服用及び管理が可能になるという格別の効果を得るに至った。

【0032】

特に、請求項 2 に記載の発明のように、子供の手の大きさを考慮して前記長孔を設ける位置を設定すれば、子供による薬剤の取り出しをより一層確実に防止できるという効果が得られる。

【0033】

更に、請求項 3 に記載の発明に於いては、一片又は他片の少なくとも何れか一方の長孔に取り外し可能な蓋を設けてなるため、薬剤への不正な操作が規制されることによって、改ざん防止が図れる等、薬剤管理の便に供し得るという特有の効果を奏する。

【0034】

また、請求項 4 に記載の発明にあつては、取り出し孔の開放時に規制片をスライドさせて取り出し孔を閉鎖させるべく規制片の端部が表出する切欠を一片又は他片の少なくとも何れか一方の端部に形成してなるため、この規制片の端部を押圧すれば取り出し孔を確実に閉鎖することができて、薬剤の誤飲防止や薬剤管理に寄与し得るという効果がある。

【0035】

更に、本発明では上述したように通常は規制片より取り出し孔が閉鎖されているので、PTPシートの流通過程等に於いて、薬剤が不用意に押圧力を受けて外部へ離脱するという虞もない。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第一実施形態に係る PTPシート用包装体の正面図。

【図 2】

同実施形態の使用状態を示す正面図。

【図 3】

同実施形態の展開図。

【図 4】

従来の PTPシート用包装体を示す斜視図。

【符号の説明】

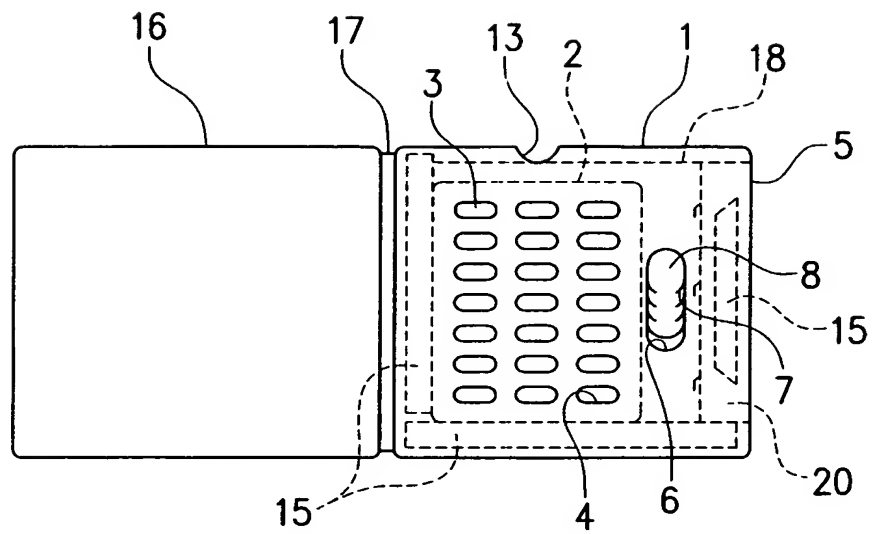
1…一片、2…PTPシート、3…薬剤、4…収容孔、5…一端部、6…長孔

、 8 … 蓋、 9 … 他片 1 1 … 取り出し孔、 1 2 … 長孔、 1 3 … 切欠、 1 4 … 切欠
、 1 8 … 規制片

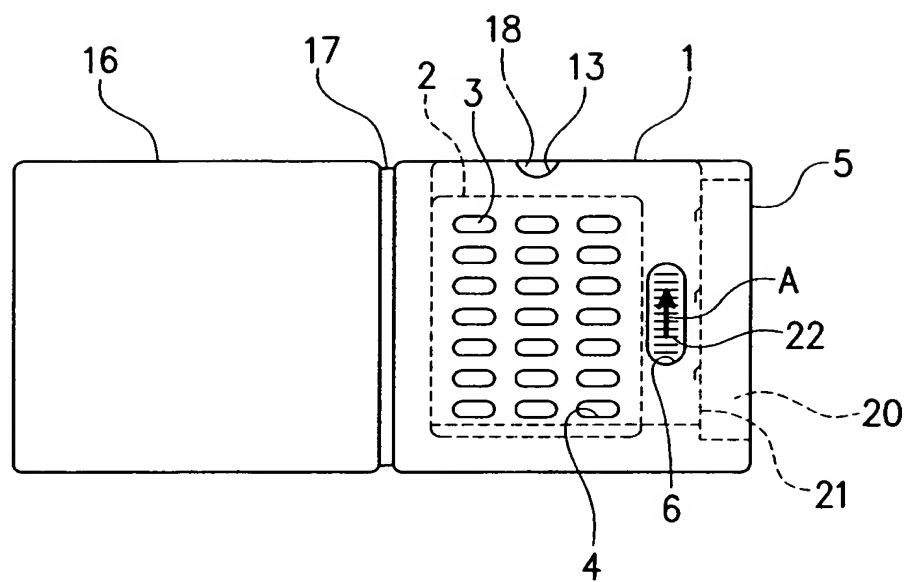
【書類名】

図面

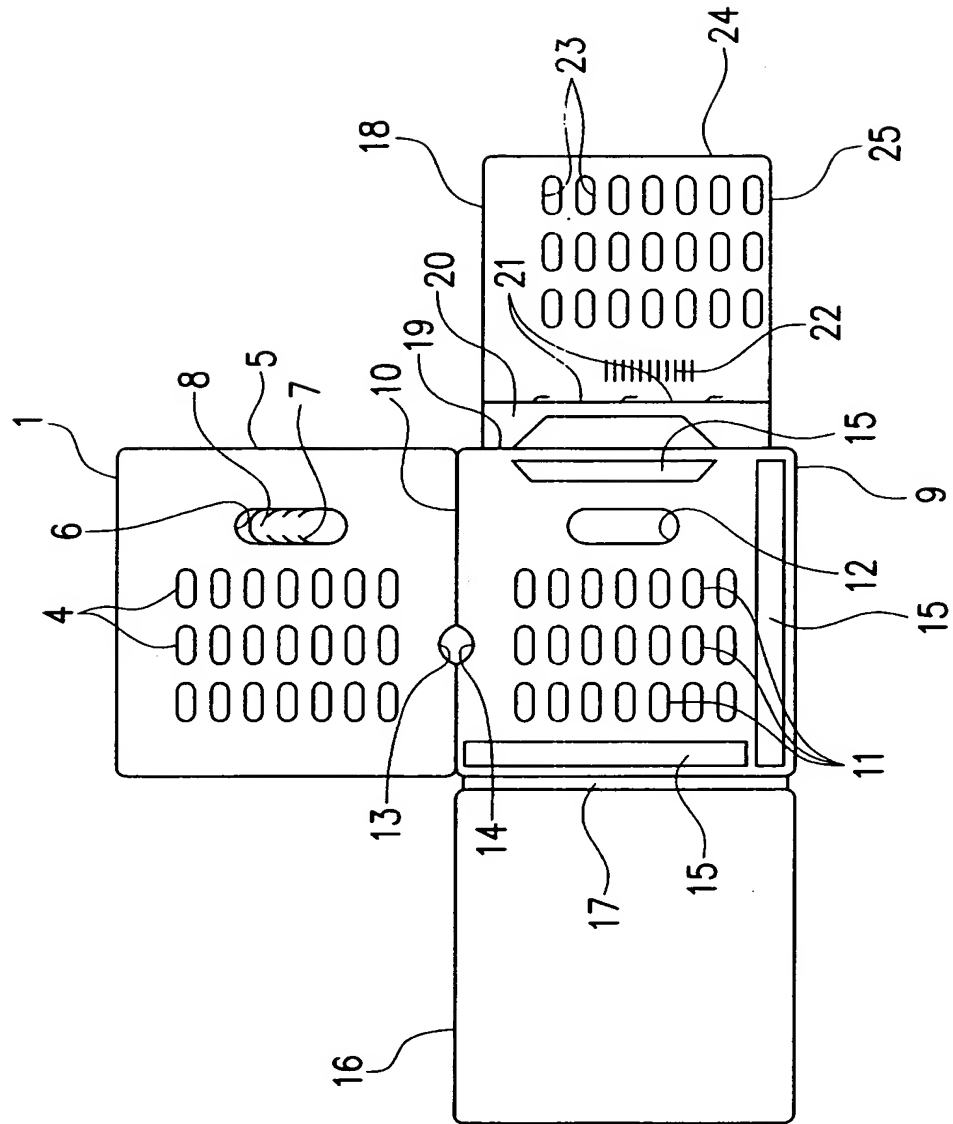
【図 1】



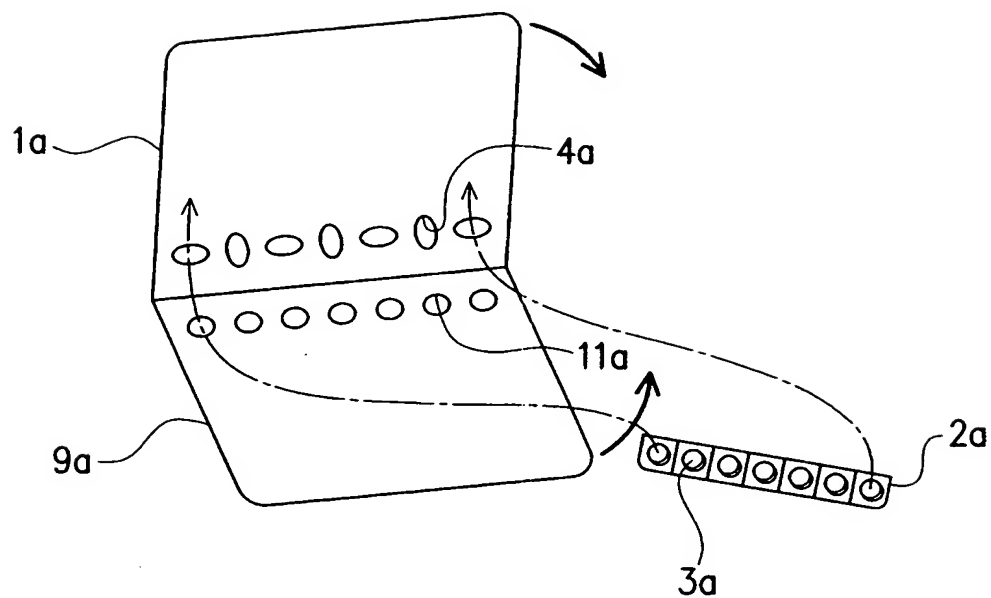
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 P T P シートの薬剤の取り出しを規制できるように包装することにより、薬剤の誤飲という事態を適切に回避し、安全且つ適正な薬剤の服用及び管理に寄与することを課題する。

【解決手段】 二片間に P T P シートを収納すべく一片に P T P シートの薬剤が収容される収容孔が設けられると共に、該収容孔に対向させて他片に前記薬剤を取り出すための取り出し孔が設けられる P T P シート用包装体であって、該取り出し孔を開閉させるべく規制片が前記 P T P シートと他片間にスライド可能に介装され、且つ前記一片及び他片には規制片が表出する長孔が対向して設けられなることを特徴とする。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 0 9 4 0 3 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [3 9 1 0 1 9 5 0 0]

1. 変更年月日	2 0 0 2 年 3 月 1 4 日
[変更理由]	住所変更
住 所	富山県富山市大手町三番九号
氏 名	朝日印刷株式会社



特願 2 0 0 3 - 0 9 4 0 3 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 1 2 9 0 5 7]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 4 日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府大阪市旭区高殿 4 丁目 1 6 番 1 1 号

氏 名

株式会社カナエ